

★ まちづくり ★ ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

165号

★ 2015年1月31日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 tel・fax 3960 - 3869

協力金振込先 郵便局00110-3-739728 ときわ台の景観を守る会

○ 都市計画審議会傍聴

1月8日(木)13時30分からの審議会を傍聴しました。分厚い資料を見せられて早口に読み上げられるだけの説明では、どこについての説明なのか、事前に資料を見ていない傍聴者には、追いついていくのがやっとです。何ヶ月かあとになってから図書館などで議事録と資料が公開されるとか。

私たちは説明会で意見を述べ、パブコメにも論理を尽くして書いてきたつもりですが、資料に付された区側回答は、区民の疑問に誠実に応えようとする姿勢は感じられず、おざなりのものとしか思えませんでした。

活発な議論も無く、2, 3人の議員から質問が出た程度。眠るがごとき板橋区の都市計画審議会は終わり、あとは東京都の都市計画審議会の審議を経て決定となるのでしょうか。

駅前35mの高さがOKとなり、ときわ台景観ガイドラインとの差をどう埋めていくかは、しゃれ街協議会の頑張りに委ねられることとなります。こういう結果が今後の常盤台の状況を悪化させるか、良い方へ転じていくか、結果を見守らねばなりません。

この一連の動きの中で、色々なことが見えてきました。民主的とは程遠い実態に呆れるほどです。しかし、がっかりしていないで少しでも自分の街、地域、国を誇りに思えるものにしていくよう、努力していくしかないと思います。

○ 中央図書館の今後について

提言まとめ会を行いました

1月17日にこれまでの話し合いの経緯を踏まえ、近隣住民利用者としての立場から提言書にまとめる話し合いを行いました。

結果として、今後の方向性は、

- ① 現建築のままエレベータの設置などの改修をする方向性で可能か再検討
 - ・現在の図書館の雰囲気を好み、取り壊しにはまだ早いと考える人もいることに配慮
 - ・改築によって規模を小さくするより、使える間は現状を維持するのがよい
- ② 改修が困難な場合には、常盤台公園内での建替を優先的に検討
 - ・規模が半減し地域図書館機能に絞ったとしても、駅から近く、木々が見える静かな環境の長所を継承する
 - ・住宅街の景観に配慮したデザインにし、このまちに相応しい最適なものにする
- ③ 現在地での再建が難しい場合は、近隣地に文化の中核となる未来型の多機能施設をつくる
 - ・人々の交流や文化の発展を促進する機能を併せ持つ、新しい図書館にする
 - ・どんな人でも心地よい居場所となる拠点になるよう、ハード・ソフト面で工夫する

以上の3点を提言とすることになりました。

2月頃を目途に図書館側で検討した方針が打ち出される見込みです。

その際、検討過程を明らかにしてもらい、多くの利用者が納得できる今後の道筋づくりがなされることを願います。

常盤台駅の防火用水

先日の上線100周年記念の常盤台の街歩きでは、駅長から簡単な説明もありました。

北口改札口を入れて直ぐ前に、水道の蛇口があります。その前にあるコンクリートの流し台には、右側からの書体で、「防火用水」と書いてあるそうです。かなり古いものと思われ、一見の価値があります。

南宇都宮駅舎の見学

今年建設80周年を迎える常盤台駅舎ですが、東武宇都宮線の南宇都宮駅の駅舎が、そっくりであると言うことは既にお知らせしております。

模型を作るFさんは早速見に行ったそうです。気候が良くなったら、マイクロバスでも立てて、見学ツアーを企画するのも良いかもしれません。

大谷石の博物館や、蔵などの立派な大谷石の建築を見て回ることもできます。

野良猫戻る？

なんの理由だったのか、一時全く姿を消したような野良猫が、このところあちこちで見かけるようになりまし。功罪を云々される存在ですが、とりあえず生態系の一部として復活の様子を見守っていきましょう。

「魚〇」の看板

駅前に白木屋という居酒屋がありました。赤の原色の看板がどぎつい感じでしたが、ビルを建て替え、「魚〇」というこれまた居酒屋が営業します。「魚〇」も方々で見ると、嫌だなあと思ってしまう。結構適当な大きさの字で、しかも黒字だったのです。板橋区でも景観形成重点地区となった常盤台についてはチエックが入ったのでしょうか。それは好感がもてましたが、壁やガラス面に貼ってある宣伝のポスターは相変わらずのセンスのなさ、これでもかというようなどぎついものでした。素敵な居酒屋、というものがあっても良いのでは？料理の内容はふつう、と言う噂です。

宮澤邸の保存

二丁目のプロムナードに面した宮澤（近藤）邸は、分譲当時に建売住宅として作られ、かわいらしい外観や冠木の赤松で親しまれてきました。建売といっても当時は各建設会社が競って良い建築を売り出したのです。

この家も近年相続者がつきつき亡くなり、保存が危ぶまれていましたが、景観を守る会の会員の一人が、街の為に交渉、保存維持を図っています。普通の人が手に入れると、古い建物は邪魔物とばかりに、樹木もろとも更地にしてしまふのが常のことなので、買い手にとってはかなりの負担と思われ、良い結果になることを望んでいます。あの家が失われることを想像すると、街並みの魅力は半減するでしょう。

常盤台公園のはなづくり

平均気温が一番低いのは、毎年一月二十九日ごろだそうです。今年も厳しい寒さで、月末は雪という予報です。

公園では早くも和水仙が咲いており、クリスマスローズもつぼみを持ち上げてきました。

三〇日には予報どおり3cmの積雪がありました。ストック・パンジー・ビオラなどは何とか寒さに耐えて春を待っています。

小鳥たちもどうやら生き延びているようで、スズメやヒヨドリに混じって、メジロが枝の間を飛びまわっているのを見かけます。早く春になって、桜や梅の花の蜜を吸いたいだろうなと思います。

それにしてもこの寒さの中で、これらの鳥たちはどうやって食べ物を確保しているのでしょうか。水はどこで？

駅のロータリーのイチヨウの木などでは、スズメのお宿というか、夕方、スズメたちが集まって賑やかにおしゃべりしていることがあります。なぜか公園の木ではそういうことはありません。

ずっと観察を続けたことはないのですが、スズメたちはあのままその木で眠るのでしょうか。彼らはなぜあんなに熱心におしゃべりするのでしょうか。その内容は？どなたかご存知でしたら教えてください。